



東京バプテスト神学校 後援会

No.40

NEWS

Homepage ▶ <http://tbts.jp> Mail ▶ seminary@tbts.jp

〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4 日本バプテスト連盟会館 048-767-8542

発行日：2026年1月29日 発行者：東京バプテスト神学校後援会 秋山 信夫

巻頭言

…… 支え、学び、呼びかけよう！

あき やま のぶ お
後援会会長 秋山 信夫（上尾キリスト教会牧師）



諸教会・伝道所に連なる皆様、また卒業生、後援会の皆様には、いつも東京バプテスト神学校を祈りに覚え、ご支援いただいておりますことを感謝申し上げます。

神学校発足（東京バプテスト福音宣教学院）は1962年ですから、今年で64年を迎えます。今日まで389名の卒業生（神学本科・音楽本科227名、専攻科113名、音楽専攻科18名、リーダー養成科31名）を送り出し、56名の現役教役者が全国の諸教会で、牧師、副牧師、協力牧師、教会主事、音楽主事として仕えています。また、卒業された方々は教役者だけでなく、信徒として教会に仕えています。私たちの神学校は、教会に仕える人材を養成することを第一の使命としていますので、卒業生の皆様は、この神学校で学んだことを生かして教会形成に励んでおられることでしょう。

神学校は、今年度より、「みんなの神学校」という理念を掲げ、また教室を「連盟会館」の4階に移転し、新たな歩みを始めています。教室と通信のハイブリッド講義と録画講義を組み合わせ、「いつ

でも、どこでも、だれでも」学べる機会を広げています。すでに、受講生や講師も、全国各地からだけではなく、海外からも神学校に関わってくださっていることは、私が対面授業だけを受けていた頃には考えられない、大きな飛躍です。今日の地方の課題や世界の課題も分かち合いながら、教会に託された宣教を考えるよい機会になっていると思います。

神学校を支えるために、三連合（神奈川・東京・北関東）からの支援、連盟からの支援を引き継いだ全国壮年会連合からの支援、諸教会・伝道所からの支援、それと共に、後援会の会員による支援などがあります。現在、本科生の減少によって受講料収入も減少していますので、これらの支援は、神学校にとって無くてはならない大きな支えとなっています。その中でも、後援会の会員による支援は、個人による小さな支援のように見えますが、祈りの輪となって、大きな効果を生んでいます。

これからも皆様をお願いしたいことがあります。

1. 支えることです。後援会は、年間の支援以外にも、「オンライン月々支援」

も一口500円

から始めています。継続は力ですから、継続して神学校を支えて頂きたいです。

2. 学ぶことです。私たちバプテスト教会の特長の一つは、信徒も御言葉を語る者とされていく点にあります。「皆が共に学び、皆が共に励まされるように、一人一人が皆、預言できるようにしなさい。」

1コリント14:31と勧められているように、御言葉を語る者とされていくために、「共に学び、共に励まされる」機会として、神学校の講義は大いに役立ちます。後援会に入って頂くと、神学校の講義は半額で受けることができますので、神学校を支えると共に、ご自身の信仰と教会の成長のために、関心のある講義を受けて頂きたいです。

3. 呼びかけることです。折角の良い講義も、一人では受けにくいという声を聞くことがあります。教会の皆さんに呼びかけて、教会共同受講をして頂くと、学んだことが教会の中で豊かに分かち合われていくことでしょう。

支えること、学ぶこと、呼びかけること、を皆様から始めてくださることが、神学校の発展につながると確信しています。

後援会の会費が **月々500円から** ご支援いただけるようになりました。



ホームページの「後援会月々支援」のページで、クレジットカードを使ってご支援いただけます。スマホやタブレットからもお手続きができますので、ぜひ皆様のお祈りとご支援をお待ちしています。

◀ **今すぐアクセス！** <https://tbts.jp/online-shien/>（後援会月々支援ページ）



「神学校で学びたいと思ったわけ」

なか ね きよし

中根 浄

(花小金井キリスト教会 牧会スタッフ)

●妻の死がきっかけに

私は高校生の時にクリスチャンになり、妻もクリスチャンで同じ教会で出会い結婚、子供も4人と与えられて、家族ぐるみで教会に繋がることが当たり前の日常でした。

ところが、私の妻は17年前に約1年間の闘病生活の末、60才で天に召されました。妻が病気となったとき、妻に対してみ言葉による慰めを語ることが出来なかったばかりでなく、共に祈ることもできず、自らもどのように祈ったらよいかも分からず、「神さまどうしてですか?」との苦悩の呻きしかありませんでした。私はクリスチャンとして、漫然とした信仰で過ごしてきて、いずれ「死」があることを先送りしていました。自分は家族の死また自分の死を、信仰の事柄として考えていなかったことに気づかされる機会となりました。

妻は病床で自分の死期が近いと感じた時、私に二つの言葉を残してくれました。一つは、私にボソッと「幸せだった」と言いました。私は妻のその言葉にすかさず「“だった”と過去のことのようには言わないで!」と涙声で否定しました。また「痛み無く天国に行きたい」とも言ったのです。死を目前にした妻は、死の先を見据えた信仰が込められた言葉だったのだと、私は後になって気づかされました。

私は妻から決して病気のことに對して、恨みつらみを聞くことはありませんでしたし、こうしておけば良かったなどの後悔話もしませんでした。でも最期に残したその言葉に込められた意味を、私が今思い起こすと、妻なりに自分の人生を振り返り、この短い言葉となったも

のと思っています。そして今も私の今後の人生の宿題として心に残っています。

●「死」について

私は今までの人生の中で、他人の死や何人かの家族の死を目の前で見届けました。

今では、自分もかなりの年齢を重ね、そろそろ自分の晩年をどう生きるか、終焉の時をどう迎えるか、「死」の問題は「他人の死」から「家族の死」さらに「自分の死」へと迫って来ています。

私は妻の「死」に直面した時、自分はその場でオロオロするばかりで、自分はクリスチャンとして「死」をどのようにとらえ、何を信じてきたか、自分の信仰はどこにあるのかと、自問自答するばかりでした。

妻の死を契機に、自分の信仰を改めて見直したいとの思いで東京バプテスト神学校に学び始めました。さらにまた、「死」の問題は、聖書のみ言葉を拠り所とし、キリスト教信仰に生きる私にとって「どのように生き、どのように死ぬか」の生き方の根幹にも関わる課題である

と思いました。

『我々には、老いも死も病いも必ず来る。その姿に直面するときに、じゃ我々の生きていることは何か、死とは何かを主体的に考えるようになるのです。その意味で、死とか老いとかを頭の中で考えないで、現に病み、老い、死にゆく人の友となって、その傍らに立つことによって、あるいは家族が死んでいった悲嘆の中にある人たちの中に入ることによって、自己学習することができる。自分の成長のためにも、そういう経験は非常に大切です。』

(日野原重明著『病むことみとること』日本基督教団出版局)

私は神学校卒業後から今も、出身教会の花小金井教会で“牧会スタッフ”としての役割が与えられています。神学校で学んだことを生かし信徒として教会に仕えるために、高齢の方々、病気入院や自宅療養の方々などのお話を聞くことや、聖書のみ言葉を分かり易く共に学ぶことが私の使命と思っています。



2025 イースター礼拝聖歌隊

出迎え、見送る牧師を目指して

えん どう まもる

遠藤 守

(鯨バプテスト教会)

2025年3月、専攻科を卒業し、4月から所属教会の牧師として歩んでいます。最後の難関であった卒業論文が遅々として進まず、焦りながら日々を過ごしていたことをときどき思い出します。



素養・能力ともに稚拙で、牧師としての器にも足りない私ですが、教会の方々は「牧師」と呼んでくださいますから感謝です。そのような私が大切であると日頃から思っていることは、礼拝のため教会に来られる方々を、心から歓迎する気持ちを込めて出迎えることです。来られる方々に暇な方など誰一人いません。それぞれ貴重な時間と労力を使ってイエス様の教を学びに来られる、そのような方々に正対し、背筋を伸ばしてお出迎えすることは弟子の最も重要な務めであると考えます。

見送りも同様です。「今週もこの方が守られますように」との気持ちを込めて一声かけて見送る。これも極めて大切と考えます。教会としての事務的打ち合わせ、相談事も必要ですが、私はこの「出迎え、見送る」ことが牧師としての大切な行為であると深く認識し、大切にしたいと思っています。

学びと出会いに感謝

かじ い ひろ こ

梶井 洋子

(八幡浜バプテスト教会)

昨年度後期の公開講座「牧会カウンセリング：みんなの相互牧会」を受講した恵みをお証します。地方に住む私が zoom を通して自宅に居ながらにして、現役牧師の講師陣から教会の具体的な事柄について学べることに惹かれ、初めての受講を決めました。週に1回のゆっくりとしたペースで毎回様々なテーマについて学ぶことで、これまでの教会生活を振り返り、不適切な対応が数多くあった



ことに気付かされました。それにも関わらず、主と周囲の方々に許されて教会生活を続けることができたことは、何よりの恵みです。

また全国の受講生の方々を通して、様々な教会の事例を伺えたことで視野を広げることもできました。中でも働きながら牧師を目指しておられる神学生の方々の、真剣な学びの姿勢に感銘を受けました。

今年度は後援会受講制度を利用させて頂き、前期一科目と夏期講座を受講し、冬期講座も受講する予定です。神学校の働きに携わっておられる講師の先生方やスタッフの方々に感謝いたします。

受講の喜びと楽しさと

さか い かず え

酒井 和恵

(大井バプテスト教会)

以前、まだ下の子どもは学校に通っていた頃、そろそろ大丈夫かな?と、茗荷谷教会の神学校に通おうとトライしたことがありました。が、不器用な私に仕事をしながらの通学は厳しく、半分も受講することができず、そのまま断念しました。その後しばらく、神学校は遠い存在でした。



コロナ禍後、インターネットでライブ受講ができることを知りました。自分自身の信仰の課題、教会学校のご奉仕での必要も感じていました。これならば、続けることが出来るそう!と、それからはほぼ每期、受講を続けています。自宅にいながら、講義を聞き、直接、講師に質問が出来ること、また、他の受講者の皆さんの意見をうかがえることは、学生に戻ったような楽しさがあり、今は、大切に有意義な時間になっています。さらに、神学校で出会った方々と、様々な機会に直接お会いして、信仰を分かち合えることは、大きな喜びと励ましになっています。これからも、毎期1〜2講座とゆっくりした学びですが、続けていきたいと思っています。

新潟主の港キリスト教会における 神学校支援

壮年会会長 佐藤 孝

新潟主の港キリスト教会では、次世代の教役者を育てる神学校の働きを覚え、壮年会が神学校献金の取りまとめ役を担っています。

特に「神学校週間」においては、「献金による神学生支援は、私たち教会の宣教活動であり、また私たち自身の献身の一部である」という認識のもと、壮年会会長より礼拝に集われた皆様に献金の呼びかけを行っています。

また月例会などの集まりでは、牧師になっていかれる神学生お一人お一人を覚え、学業と召命が守られ、豊かな成長が与えられるよう、心を合わせて祈ります。献金と祈りの両面から、教会の土台を支える神学校の働きに深く関わり、今後支援を実践していきたいと考えております。

一科目からでも

信徒 渡辺 徳治

一信徒が、神学の基礎を学べる場である、「神学校」は、私のような高齢者（78歳）にとって肉体は疲れましたが、霊は神様とより深くつながる場でありました。西南大学神学部の教授と、オンラインで直接対話できたことは、大きな喜びでもありました。神学の学びとは、「聖書を旅する場」でもあり、私が天の国に一步一步進む道でもありました。そして神学は、神に真摯に向き合う姿勢を、自覚させられる場でもありました。

是非皆様も、1科目からの受講でも良いと思います（私もそうでした）。神に向き合う訓練のつもりで、ぜひ受講されることをお勧め致します。

2025年度4月～11月 後援会献金報告

● 後援会献金（個人）実積 …………… 111名 合計929,501円（前年度1,856,200円）

ウオン・グアンシー エイカーズ愛 芦沼光雄 安原信彦 安里耕二 伊藤世里江 井伊肇 井東元 壺岐基子 稲垣久美子 稲垣誠 宇津木彰 遠藤守 奥田光子 岡田千尋 岡田富美子 岡田有右 岡田利男 加藤徹 河内理恵 角田秀明 梶井洋子 梶原博文 岸田梢 岩瀬礼 菊地梨花 吉原正子 吉成由利子 吉成隆 吉武利子 久保久仁 久保葉子 宮下めぐみ 宮西日出子（2） 古谷健一 五島裕紀子 高柳美枝子 鴻野清美 佐々公子 佐藤絵美 斎藤美津栄 鮫島泰子（2） 山口慎子 山崎清美 山川許子 山田洋子 山本久仁子 若林一枝 守屋まゆ美 秋山献一 秋山信夫・純子 十時節子 勝俣昌也 松村誠一 松田朝子 松田美奈子 沼尾有紀子（3） 上原克也 城倉由布子 常廣澄子 植木ひとみ 森山ひろみ 深澤和子 神山武 清岡道子 清水和恵 生明伊世子（2） 盛本かおり 西方泉 青木周一 青木節子 石垣茂夫（2） 川内裕子 村上真由美 村田裕子 対田澄子 大下仁 大江満知子 大矢公子 谷則和 中島世来 中澤なつみ 丁野雅子 鳥飼好男 辻真理子 鶴ヶ谷芳昭（2） 天津みつ枝 渡部富夫 渡辺徳治 藤原俊子 藤澤鈴子 白井由季子 飯田みか 富田直美（2） 武宮陽子 武林真智子 福本綾子（3） 文廷翼 平井純子 平田和美 保木はるみ 豊永義典 堀尾奏 末盛桜子 木元和子 木村晋治 立田たくや 立田裕美 林健一 鈴木恵子 齋藤麻実

● オンライン月々支援 …………… 46名

小牧由香 村上千代 林雄植 奥田稔 蛭川潤子 美園和彦 城倉啓 秋山信夫 山本恵子 藤井秀一 岡村直子 白井愛子 中根淨 松田俊介 高地輝夫 篠松次郎 山岸明 加山彰一 加山礼子 上原一晃 鈴木早苗 石井規之 田中宣之 渡辺朋美 川勝高宏 上田みずほ 松田健太郎 足立智幸 舩田栄一 小林亜矢子 新井朋美 井馬佐紀子 大須賀真人 勝俣昌也 酒井和恵 鬼澤寛 菅井善一 堀端洋一 萩原永子 小平公恵 西山京子 荒木喜三代 ウオン・グアンシー 上野仁美 畑中愛 秋山献一

● 2025年度4月～11月 教会・集会献金実績

※詳細は神学校ニュース5月号に掲載します。

…………… 合計 1,506,747円（前年度1,583,714円）

東京バプテスト神学校の働きを支援するために、あなたも「後援会」にご入会ください

1. 定期支援

個人会員：年額1口 ¥5,000 何口でも歓迎いたします
※後援会に入会すると受講料が半額になります（年会費は1年間有効）。

2. 自由献金支援

支援額も、支援回数もご自由にお決めください。

郵便振替口座

00210-8-75658

東京バプテスト神学校後援会

※専用払込票をご希望の方は、メールにてお申込下さい。